

11. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (九州)	◎	商店街（代表者）	・秋になると涼しくなり、新型コロナウイルスのピークも過ぎるため、来街客数も増えると予想されるが、12月になると第3波が発生するのではないかと懸念している。
	◎	商店街（代表者）	・地域事業のプレミアム付商品券が発行され、年末ムードが出てくると予想される。しかし、新型コロナウイルスの影響やインフルエンザ、加えて政界の動き等で、先行き不透明である。
	◎	乗用車販売店（従業員）	・客も新型コロナウイルスに対する付き合い方を学んできており、需要も徐々に回復してくる。
	○	スーパー（店長）	・新型コロナウイルスの影響で、自宅での食事が増えており、食品を中心に順調な売上である。また、生花の相場も高くなっており、前年比115%で推移している。高騰状況であるが、売上は相場高のため、全体的に良い流れである。この傾向は、半年は続くと予想される。
	○	スーパー（店長）	・新型コロナウイルスの影響で、環境次第では景気が大きく変動すると考えている。新型コロナウイルス感染の対策をしながら感染リスクを軽減し、感染者数の減少やワクチンの開発のめどが立てば、景気は上向きに動く。
	○	住関連専門店（従業員）	・秋冬寝具は単価が高いが、需要が見込まれるため、景気が良くなると予想される。また、気候も涼しくなり外出しやすくなることで、来店客数が増えることを期待している。
	○	その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・暑い夏から秋へと季節が変わるが、通常コーヒーは夏より冬の方が売上が上がる。気温が下がってくると、家庭で消費されるコーヒーの量も増えるため、2～3か月先は現状より良くなると予想される。
	○	都市型ホテル（スタッフ）	・新型コロナウイルスは収束気味ではあるが、まだまだ油断できない。
	○	タクシー運転手	・良くなるとは考えにくい。総理が退陣するが、新型コロナウイルスの対策と経済のテコ入れをすれば、若干景気が上向くと期待をしている。
	○	通信会社（企画担当）	・新型コロナウイルスの影響で止まっていた事業が動き出し、新型コロナウイルス対策や新しい時代に対応した経営案件が徐々に増えている。
	○	ゴルフ場（従業員）	・秋になり過ごしやすくなると、若干良くなると予想するが、新型コロナウイルスとインフルエンザの流行次第で悪くなる可能性もある。
	○	競馬場（職員）	・客の入場再開を期待したい。
	○	住宅販売会社（従業員）	・建築条件付分譲事業が順調で、良い傾向が見受けられる。
	□	商店街（代表者）	・全体的に新型コロナウイルス発生以前から景気は良くはないが、良くも悪くも今後に影響を及ぼす要因として、新型コロナウイルスがポイントである。まだ、先行き不透明なため、回復する状況ではない。
	□	一般小売店〔鮮魚〕（店員）	・年末は年間で一番の稼ぎ時であるが、今年は新型コロナウイルスやインフルエンザの流行もあり、どのくらい景気回復するのか先行き不透明で、不安である。とにかく朝晩少し涼しくなり、消費者の購買意欲が戻ることを期待している。
	□	一般小売店〔精肉〕（店員）	・新型コロナウイルスの影響が収まる要因がない。
	□	百貨店（企画担当）	・新型コロナウイルスが終息するとは考えにくい。
	□	百貨店（営業担当）	・新型コロナウイルスの感染警戒による外出自粛と他県からの帰省制限は続いており、夏休み催事や帰省減少が要因で、3世代来店による購入が減少している。ダイレクトメールを抑制し、また、3密防止で物産催事のインターネット販売を促進し、客の期待に対応している。クレジット利用の促進やし好性の高い舶来雑貨や工芸品、自家需要は期待できるが、外出への慎重な姿勢や購買意欲は減退しており、生活防衛意識は継続し、街への外出と店頭での購入共に回復は遅れると考えられる。

<input type="checkbox"/>	百貨店（営業担当）	・秋口に掛けて、新型コロナウイルスやインフルエンザの影響も出ると考えられ、先行きを予想しづらいが、現状の流れでは、横ばいで推移すると予想している。富裕層の需要である高額品は堅調で、宝飾や時計、ラグジュアリーブランドは、一部前年を上回っているアイテムもある。まさしく、二極化になっている。
<input type="checkbox"/>	百貨店（販売促進担当）	・減少していた来店客数も徐々に回復傾向にあるが、新型コロナウイルスの影響が先行き不明なため、変わらない。
<input type="checkbox"/>	百貨店（売場担当）	・当店の衣料品では、一部ブランドが撤退している。北海道物産展や県産品は、規模を縮小して行う予定であるが、それらの状況を鑑みても、先行きは変わらない。新型コロナウイルスの状況にもよるが、全体的では70～85%の売上を想定している。
<input type="checkbox"/>	百貨店（売場担当）	・新型コロナウイルスの感染が第2波により拡大、継続している現状では、今後の景気回復が不透明のため、判断が難しい。徐々に景気が回復しても、これまでの販売方法が難しいと考えられ、現状維持程度である。
<input type="checkbox"/>	百貨店（プロモーション担当）	・多少の浮き沈みはありながらも、来年春頃までは自粛や非接触な生活スタイルは大きく変わらないと考えられ、オンラインの構築が急がれる。
<input type="checkbox"/>	スーパー（総務担当）	・新型コロナウイルスの状況が2～3か月で終息しなければ、客の健康志向の高まりや、外出自粛での価値あるものへの支出等、新しい生活様式が当面続くと考えられる。したがって、地域の食品スーパーマーケットの売上は、引き続き前年を上回る水準を維持するものとする。特に、生鮮を強みにして店舗運営を行っている業態では、その傾向が強い。
<input type="checkbox"/>	スーパー（企画担当）	・新型コロナウイルスの影響による内食傾向は変わらず、スーパーマーケットの来店客数は横ばいであると予想するが、衣料品関連の動きは商品調達の調整等も考慮すると、不振が継続する。
<input type="checkbox"/>	スーパー（経理担当）	・産業の停滞による収入減少のために、スーパーマーケットからディスカウントストア、ドラッグストアの低価格志向へ向かうと考えられ、懸念している。
<input type="checkbox"/>	スーパー（統括者）	・まだまだ新型コロナウイルスの影響で、内食需要は続いており、更に安心・安全・おいしさ・安さ・楽しさ等良さの変化とアピールを継続していくことで、維持継続につながると考える。競合店もあるため、対策を考えなければ、若干悪くなっていく。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（経営者）	・商品部門別では、大半が前年を上回る状況が継続しているが、客数が減少しているため、全体の売上が落ちている。その背景には新型コロナウイルスの影響があり、収束しない限り回復しない。客は最低限度の必需品しか購入せず、消費マインドは非常に冷え込んでいる。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（経営者）	・感染症の分類が下げられても、経済活動がすぐに活発になるとは考えられない。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（エリア担当）	・コンビニエンスストアでのおでんの販売時期になるが、対面販売が衛生上難しいため、売上の減少は否めない。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（店長）	・新型コロナウイルスの終息がみえないため、今の状態がまだまだ続く。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（エリア担当・店長）	・今後も新型コロナウイルスの影響が心配されるが、接客業のため感染におびえながら営業している。何もなければ客数も客単価も変わらないと予想するが、暑さが残っている間は、客数や客単価は若干例年を上回る。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（店長）	・しばらく、新型コロナウイルス感染者が出ていなかったが、再発生があり、3密厳守や外出自粛等で来街者も来店客もほとんどない。この傾向はまだ続くと考えられる。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（店員）	・冬になり、新型コロナウイルス感染者が増加すると、また緊急事態宣言が出されるのではないかと危惧している。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（取締役）	・秋は、暑さも和らぐため、人の動向は活発になることが期待できるが、冬には新型コロナウイルスとインフルエンザの流行もあり、自粛生活が十分考えられ、また、総理も辞任するため、景気が変わらない厳しい状態が継続すると予想している。

□	家電量販店（店員）	・新型コロナウイルス禍であるが、家電量販店では、余り影響を感じていない。来店客数は減少しているものの、目的買いの客が来店するため成約率が高い。詳しく説明をして接客している効果もあり、エアコンディショナーや冷蔵庫、洗濯機、テレビは問題なく販売できている。しかし、今後は余り上昇する気配もないため、このまま変わらないと予想している。
□	家電量販店（広報・IR担当）	・新型コロナウイルスに関する需要がどこまで続くか、不透明である。
□	乗用車販売店（代表）	・好条件がないため、変わる気配がない。
□	乗用車販売店（総務担当）	・新車と中古車の販売台数は新型車効果があり、急激な改善は期待できないものの2～3か月先は前年並の台数で推移していく。
□	住関連専門店（店長）	・他業界と比較すると悪くない。新型コロナウイルス対策として自宅での時間を快適に過ごすために、居住空間を見直し、雑貨や家具に対する意識が上がっている。
□	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	・今後の燃料油の小売価格は、予想しにくい小幅な動きはあると考えられる。9～10月の行楽シーズンにおける燃料油等の車に関する商品の需要は、近隣地への自動車による移動などの影響は受けにくいいため、さほど変わらないと予想している。
□	その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	・インバウンドの回復は、まだまだ先だと予想される。
□	一般レストラン（経営者）	・国や県の対策も新型コロナウイルス感染が始まった当初ほどの政策はなく、大変不安で仕方がない。テイクアウト等も実施しているが、その場しのぎにすぎない。
□	観光型ホテル（総務）	・新型コロナウイルスの第2波が落ち着いても、ワクチンや特効薬開発まで人の動きが大きく変わることはない。
□	旅行代理店（従業員）	・国内旅行と海外ビジネス渡航はある程度戻ることが予測されるが、冬場に掛けてのインフルエンザ流行も懸念され、海外観光旅行はほとんど期待できない。
□	タクシー運転手	・どうにか乗り切ろうと皆が必死であるが、思うようにはならず深刻な状況になっている。
□	通信会社（業務担当）	・新型コロナウイルスが落ち着いても、元の売上に戻る見込みがない。
□	通信会社（企画担当）	・現在程度の販売量の維持を見込んでいる。
□	理容室（経営者）	・1人で理容業をしているため、客と1対1になり、新型コロナウイルスに対する警戒心は感じられないことで、景気は余り変わらないが、旅館、観光業、飲食関係の客は悲鳴を上げており、長引けば危ない状態である。
□	美容室（経営者）	・2～3か月先の景気は、良くなると考えていたが、今の状態から、横ばいではないかと予想している。自粛傾向にあることで、来店客の回復の兆しが出ていないのが現状で、秋口には、おしゃれ産業に流れが出てくることを期待している。
□	美容室（店長）	・旅行や結婚式を控えている客もいるが、何も予定がなければ、来店するまでの間隔が長くなる。
□	その他サービスの動向を把握できる者（所長）	・身の回りの景気はほぼ底と感じているが、景気回復にはまだまだ時間が必要だと予想される。
□	その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・引き続き新型コロナウイルスの影響により、介護会社の業績が大幅に増減することが想定される。
□	設計事務所（所長）	・ただでさえ仕事量が減少しているにもかかわらず、新型コロナウイルスの影響で打合せ自体が延期になっている。そのため、2～3か月で結果が出るところが、6か月掛かり、厳しい状態である。
▲	商店街（代表者）	・大都市との交流が始まると地方での新型コロナウイルスの第3波、第4波感染者の増加が危惧される。
▲	商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの第3波、あるいはそれ以上のおそれもあり、良い予測が立てられない。

▲	商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの影響で、街に出る人が少なくなっており、その上、会合や宴会も自粛が続いている。夜の接待業でも売上がとても少ない。売上が減少すると、洋服や装飾品の購入を節約し、婦人服店の売上が減少、新たな仕入れも鈍くなる。そのように社会は、全てつながっているものと今回改めて実感しており、先行きが不安である。
▲	一般小売店〔生花〕（経営者）	・ギフトの販売がメインのため、この暑い時期より、2～3か月先の涼しくなった時期の方が売上が多いと予想される。今まで、新型コロナウイルスの影響を受けていなかったが、影響が出始め、続くようであれば、売上は下がっていく。
▲	一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・新型コロナウイルス感染者はまだ多い。2～3か月後もこの状態から脱することはないため、以前の売上に戻ることはない。
▲	百貨店（業務担当）	・秋以降の祭りは中止が決まり、秋の旅行もない。今後のコト需要もほとんどないため、買物の必要もない客が多くなる。しばらくはこの状態が続く。
▲	コンビニ（経営者）	・新型コロナウイルスの終息が予測できないため、今後も人の動きは低迷することからイベントや催事のプラス要因が期待できない。コンビニエンスストアとしての内食、生活必需品の購入に頼るのみの厳しい売上状況が続く。
▲	コンビニ（経営者）	・3か月後も新型コロナウイルスの影響が消えると考えられないことから、売上上昇は見込めない。店舗収益の改善のため、何らかの対策が必要である。現状の雇用調整助成金等が該当しない経営者がいることを理解してほしい。
▲	衣料品専門店（総務担当）	・これから冬に向かい、インフルエンザ及び新型コロナウイルス感染拡大が予想され、景気は悪化する。
▲	家電量販店（総務担当）	・新型コロナウイルス感染拡大の影響は景気全体に広がり、収入に対する不安が徐々に消費行動にも連鎖し始め、今後の家電買換え需要が鈍くなることが危惧される。
▲	家電量販店（従業員）	・冷房器具の需要のピークも過ぎ、落ち着く。
▲	住関連専門店（経営者）	・新型コロナウイルスの終息が見通せないため、巣籠り消費による特別定額給付金10万円で家具等を購入した客も、今後は財布のひもを締めて節約をすると考えられ、経済活動が停滞している現状では、先の見通しは大変厳しい。
▲	その他飲食の動向を把握できる者〔酒卸売〕（経理）	・新型コロナウイルスの影響で、存続できる企業とそうでない企業の淘汰が、更に進むと予測している。さらに、雇用調整助成金が終了すると、雇用を失う人も多数出ると想定され、外食産業を取引先としている当社の景気上昇は、見通せない。
▲	タクシー運転手	・先の見通しが見えない状況では、客の増加は難しい。
▲	通信会社（営業担当）	・巣籠り需要が落ち着き、例年と変わらない販売レベルになると考えている。
▲	美容室（経営者）	・新型コロナウイルスの影響で、営業を続けることができるか懸念される。
▲	住宅販売会社（従業員）	・新型コロナウイルスの影響で、景気は低迷しており、Go To TravelキャンペーンやGo To Eatキャンペーン等の国の施策で補助もあるが、景気が上がるか疑問である。やはり、主要産業の外国向け戦略の動向が戻らなければ、状況は良くならない。
×	商店街（代表者）	・この夏は猛暑になり、新型コロナウイルスの終息も分からないため、営業努力はしているものの、先行き不透明で今後は懸念される。
×	商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの感染状況によっては、景気は変化すると予想しているが、今の状況ではファッション関連業種は先行き不安である。
×	コンビニ（店長）	・購入を考えていても、企業破綻やリストラ等で先行きが不安であれば、購入することができない。
×	衣料品専門店（店長）	・秋口に少しは持ち直すかどうか心配である。
×	家電量販店（店長）	・前年は8月末から消費税引上げ前の駆け込み需要が発生したが、新型コロナウイルスの影響による売上減少を、同水準にカバーする手立てがない。

	×	その他小売の動向を把握できる者 [ショッピングセンター] (支配人)	・現状新型コロナウイルス第2波もピークを過ぎ、収束の兆しを見せている一方で、季節が寒くなり肺炎が本格的になる時期に向けて不安も大きい。今現在営業できているテナントの経営状況もギリギリで、新型コロナウイルスのマイナス影響が続くようであれば、更なる倒産や事業撤退の案件が増えると危惧している。
	×	高級レストラン (経営者)	・当店は、接待利用の会社関係が主な客であったが、新型コロナウイルスの影響で、生活形態が変化しており、接待文化が少なくなっていることを日々感じている。会社関係が動かなければ、この先はかなり厳しくなっていく。総理も辞任し、先行き不透明で非常に不安である。
	×	高級レストラン (経営者)	・弁当と出前だけで営業しているため、従業員の給料を支払わなければいけない状態である。2~3か月先は、借入れもできない状態になりそうで、ひっ迫している。
	×	一般レストラン (スタッフ)	・新型コロナウイルス次第で景気が左右される。第2波、第3波と悪くなる一方で、国の対策が何も出ない状況になる。
	×	スナック (経営者)	・新型コロナウイルスの陽性者数は、相変わらず増え続けているが、感染しやすい秋から冬へ季節が移ると、更なる感染者増加が予想され、外出する人が減少する。一部の業界を除き、減収の影響を受け、外食等レジャー消費への財布の引締めも一層懸念される。
	×	観光型ホテル (専務)	・新型コロナウイルスの影響で、全く先が読めない。
	×	都市型ホテル (販売担当)	・9月の大型連休等も稼働率が上がっていない。
	×	都市型ホテル (スタッフ)	・客は新型コロナウイルスに非常に敏感であり、秋から再流行期に入れば、客の移動や来館はかなり少なくなる。
	×	観光名所 (従業員)	・新型コロナウイルスの影響がまだ続き、例年どおりの観光客数は見込めない。
	×	設計事務所 (所長)	・冬季の新型コロナウイルス感染拡大のおそれもあり、生活のために現金確保が優先されると不要不急の支出を控える状況になっていき、経済が停滞する。
	×	設計事務所 (代表)	・新型コロナウイルスの影響がどのくらい長引くか不透明である。
企業 動向 関連  (九州)	◎	*	*
	○	食料品製造業 (経営者)	・水害の片付けも一段落し、もう少しで生産ができる見通しである。
	○	電気機械器具製造業 (取締役)	・新型コロナウイルス対策により、ある程度景気が維持される見込みではあるが、ワクチン開発の遅れ等により、この景気悪化が長引くことが予想される。
	○	精密機械器具製造業 (従業員)	・新型コロナウイルスの影響がどこまで響くか分からないため、受注先からの厳しい受注量が継続することになり、まだまだ予断を許さない状況にある。
	○	輸送用機械器具製造業 (営業担当)	・当初の生産計画の水準に戻りつつあり、更に6~7月の新型コロナウイルスや令和2年7月豪雨による非稼働日のばん回数も、上乘せされた生産が計画されている。
	○	その他製造業 [産業廃棄物処理業]	・少しずつではあるが、自動車、半導体向けの生産量が増えており、徐々に回復してくるものと考えている。
	○	経営コンサルタント (代表取締役)	・新型コロナウイルスが終息しつつあるとは考えられない。この状況が長期化しており、若干外出自粛にも疲れてきているため、少し戻っている。9月は少し涼しくなり、経済的にもプラスに向かうと予想している。
	□	農林水産業 (経営者)	・新型コロナウイルスが終息して、自由に外食できる状況でなければ、新型コロナウイルス発生以前の状態は期待できない。業界の特殊性もあるが、消費が伸びず、原料となる鶏の入荷に不安を感じている。また、海外からの渡航禁止による実習生の労働力確保にも懸念しており、年内の生産体制は何とか維持できるものの、来年は現状の流れであれば工場稼働に支障が出てくる状況である。
	□	化学工業 (総務担当)	・国内医薬農薬中間体の需要は堅調である。
	□	窯業・土石製品製造業 (経営者)	・新型コロナウイルスの終息が難しいようであるが、通常のルート販売も難しい状態である。インターネット関係を十分活用して、戦略的にしていかなければ今後の企業活動も難しくなる。
	□	金属製品製造業 (事業統括)	・株価は回復しているが、実態の受注量は増加しない。今後の設備投資意欲次第では、回復状況にも変化が出てくる。

□	一般機械器具製造業（経営者）	・取引先の体制が若干変わったことで、新体制の動きが一番懸念される材料である。受注生産を主体に置いているため、相手の体制で大きな影響を受ける。
□	建設業（従業員）	・今期の初めから、受注することができ、さい先良いスタートを切っている。人員配置や受注する物件を絞っていかねばならないことが多少マイナス要因になるが、見積案件もあり、これからも受注に向けて営業活動に力を入れたい。
□	輸送業（従業員）	・化粧品消費量は、伸びない見通しである。
□	輸送業（従業員）	・新型コロナウイルスの影響はまだまだ続き、回復までは時間が掛かる。
□	輸送業（総務担当）	・新型コロナウイルス感染拡大が収まるまでは、この状況が続く見通しである。
□	通信業（職員）	・新型コロナウイルス禍でも、情報通信分野の需要は継続する。
□	通信業（経理担当）	・現時点の新型コロナウイルスの影響で、良しあしどちらにも進展が見込めない。
□	金融業（調査担当）	・新型コロナウイルスによる景気の低迷は依然続いており、感染者数の減少と効果的なワクチンの開発等が進まない限り、以前の水準には戻らない。また、今後注視していく事柄として、新型コロナウイルスに適用した企業活動の定着と米国の中国に対する制裁が高まっており、中国企業に自動車関連部品等輸出している日本企業は低迷する可能性がある。
□	金融業（営業）	新型コロナウイルスの影響は、先が見えない状況である。ほとんどの業種で、現在の悪い状況が続くと考えられる。
□	金融業（調査担当）	・今後の景気は、新型コロナウイルスの終息の行方次第である。ワクチン開発が進展しているが、秋から冬に掛けて再流行を懸念する声は根強い。
□	金融業（営業担当）	・新型コロナウイルスの影響で、中小事業者の売上低迷が継続している。人件費を中心とした固定費等で運用できない費用は、セーフティネット等の借入で、資金繰りをまかなっているが、業種によっては底を突く企業もある。今後、従業員の解雇や失業が出てくることになり、先々は余り良くならない。
□	新聞社〔広告〕（担当者）	・上向く材料が見当たらない。
□	広告代理店（役員）	・業績の3か月予想では、ほぼ現状の横ばいである。新提案であるニューノーマルのテーマを積極的に実施しているが、客業績の悪化から実行に至るケースは少ない。
□	経営コンサルタント（社員）	・新型コロナウイルスの状況が落ち着かなければ、外部に働きかけるのが難しい。
□	その他サービス業〔物リース〕（職員）	・新型コロナウイルス第2波は収束気味ではあるものの、依然として景気回復を見込める状況ではない。
▲	繊維工業（営業担当）	・2～3か月で状況は変わらない。少しずつ本来の仕事が入りつつあるようだが、全く足りない状態である。
▲	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・今期予算化済費用について、新型コロナウイルス対策関連事業へ回されることが増えている。
▲	金融業（従業員）	・新型コロナウイルス感染者が再び増加傾向であるが、Go To Travelキャンペーンによる旅行申込みや飲食店の予約に今一つ勢いが感じられず、ホテルや旅館、飲食店等では厳しい状況が続いている。
▲	経営コンサルタント（代表取締役）	・新型コロナウイルスの影響により延期していたイベントが、再延期ではなく中止決定の案件が出始め、活動自粛が増加する。
×	家具製造業（従業員）	・まだ新型コロナウイルスの影響を受け、グローバルな展開ができなくなっており、国内の需要だけでは新型コロナウイルスの発生以前の経済には戻らない。画期的にワクチンが開発され、新型コロナウイルスがインフルエンザと同等の扱いになれば、元に戻る可能性が高いと考えられるが、現時点では悲観的要因が多い。
×	一般機械器具製造業（経営者）	・体制を入れ替えて受注へつなげたいが、市場そのものが冷えており、もっと他の対策を練り直す必要がある。
×	電気機械器具製造業（経営者）	・米中貿易摩擦や新型コロナウイルス等不安要因が多く、先行き不透明で今後が懸念される。
×	電気機械器具製造業（総務担当）	・今後も新型コロナウイルスの影響が予想される。

	×	建設業（社員）	・上半期まで残り1か月になり、目標の80%までは発注されてこない状況である。新型コロナウイルスの影響だけではなく、発注自体の停滞があれば非常に厳しい。公共工事の補正も確保できることを望んでいる。
	×	経営コンサルタント（社員）	・新型コロナウイルスで影響を受けた取引先関係も、連鎖的に経営難に陥っている。
	×	その他サービス業〔コンサルタント〕（代表取締役）	・市町村によっては、新型コロナウイルス対策を理由に既に契約していた委託業務を契約破棄にするなどの対応に出ているところもあり、8月に打診を受けている。このため、市町村からの受注が見込めない状況にあるため、景気が悪くなる。
雇用 関連 (九州)	◎	—	—
	○	人材派遣会社（社員）	・求人数の回復に伴い、契約数が改善傾向である。新型コロナウイルスで見送っていた欠員補充が動き始めている。
	○	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・新型コロナウイルスへの正しい対応策に理解が進み、感染に気を付けつつも経済を回していくという動きが進む。冬にはインフルエンザも流行する季節要因が考えられ景気が心配されるが、秋は人の動きも活発になると予想できる。
	□	人材派遣会社（社員）	・今後の新型コロナウイルスの影響がつかめないため、先行きは分からない。
	□	人材派遣会社（社員）	・9月末で契約を更新しない派遣者も出ている。新型コロナウイルスの影響で、仕事量が減っており、現状の人数で対応が十分可能ということで、後任を取らない企業も若干ある。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	・専門家によると感染拡大のピークは迎えたようであるが、高齢者の重症化は、拡大傾向にある。飲食の繁盛店は3密になる可能性があるため、客足は離れている。新型コロナウイルスの感染状況次第ではあるが、このような傾向はしばらく続く。
	□	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・国の休業補償が、年内は延長になったこともあり、しばらくの景気は横ばいである。
	□	職業安定所（職員）	・体力のない会社の雇用切りはほぼ終了し、今後、休業要請がない限り、求人求職の動きは現状維持と思われる。
	□	学校〔大学〕（就職支援業務）	・新型コロナウイルス感染者数の影響は継続するものの、新卒採用数の減少は現時点と比較し、更に悪化することはないと予測している。
	▲	人材派遣会社（社員）	・9月末での派遣契約の終了が多く、10月以降の派遣契約開始件数が少ない状況である。
	▲	人材派遣会社（社員）	・新型コロナウイルス関連の給付金事務処理等の短期的な求人はあるが、紹介予定派遣等、直接雇用につながる派遣依頼はない。
	▲	新聞社〔求人広告〕（社員）	・お盆の求人特集の不振について取材したところ、先が見えないことで、新規の求人広告を出すことは難しい企業が多かった。新型コロナウイルスの感染者数の推移は、2～3か月後には、先が見える状況になっているとは到底考えにくく、改善の見込みは薄い。
	▲	職業安定所（職員）	・新型コロナウイルスの感染が止まらず、治療法や予防策の見通しが不透明で、消費者は委縮している。また、政府等の支援策も出尽くし、新たに有効な景気回復策が出てくるとは思えない。
	×	人材派遣会社（社員）	・新型コロナウイルスの影響が長引くと、様々な企業で雇用調整をする気配があり、今後の契約更新に企業からの相談が少しずつ増えている。プラスの動きを取りつつも企業側が控えているため、先行きが不安である。
	×	職業安定所（職員）	・令和2年7月豪雨と新型コロナウイルスの第2波があり、海外でも新型コロナウイルスの感染状況が2月の状況と変わっていないため、悪くなっている。
×	民間職業紹介機関（職員）	・今後の動きは、4年生採用は大体終了した印象があり、追加の求人が期待できないことや次の3年生については未定という企業が多い。加えて、一部業界を除き人材の余剰も発生し、より厳しくなる。	